

10月総評 暮田真名

ATMの口すぐ閉じて冬薔薇

有野水都

「ATMの口」はお金の取り出し口のことだろう。無機質な灰色から一瞬お金が覗いて、また灰色に戻る。灰色→お金→灰色という視覚の移り変わりが枯れた景色のなかにぽつんと咲く薔薇に重ねられるという、なんとも現金(！)な連想が成功している。

なぜいま裸になったのかわからな

いという瞬間だらけの毎日に幸福

の鳥鳴く

吉富快斗

「裸になる」とはもっともプライベートなところを晒すことだから、つねに慎重な判断に基づいて行われるはずである。しかし発話者は自分が裸になる理由がわからず、しかもそのようなことだらけであるという。錯乱にも近い、やぶれかぶれのなかで見出される「幸福」がまばゆい(書いていて、もしかして裸になるのは発話者ではなく乳幼児だったりするのかとも思いましたが、それだと「幸福」と近すぎるので、上記の読みで)。

月に出るうさぎはハイターで殺す

クイスケ

ざんこく、かわいそう、という思いは当たり前湧くものの、わたしたちがふだんうさぎを愛でているのはうさぎが害獣ではないからだし、ゴキブリならばハイターをかけて殺すこともある。現に、農業を営む人々のあいだではうさぎが害獣と見なされることもあるようだ。月の住人にとってのうさぎ、という新しい視点をもたらした。

心臓が鬼燈になるちょっと泣く

齊藤菜

ほおずきは心臓と違って筋肉でできてはおらず、全身に血を巡らせるポンプの役割も果たしてくれないだろうから、心臓がほおずきになったら死んでしまうのでは。それでもなお生き

て動いているのは、人ではないものに変身したからだろう。失った人の身体を恋う涙が切ない。

クッキーは木の葉の形

わたしにも

なりたいものがあつたと思う

飛和

奇妙な歌だ。クッキーは文字通り「型にはめられて」葉っぱのかたちになったのであって、なりたくてそうなったわけではないのだから。表面的には「なりたいものになれなかった」ことへの屈託を語っているようで、その奥では「お医者さん」や「漫画家」などと社会の役に立つ言葉で「なりたいもの」を決めることへの異議申し立てが行われているようでもある。

B 2 から南瓜を持って 3 F へ

空音アオ

英字1文字 + 数字1文字の階数表記に着目した句。それぞれは見慣れているようで、こうして一つの句のなかに二つ収まっているとなにか未来的な効果が生まれる。垂直移動（簡潔に述べられているためか、汗をかいて移動している感じがしない。エレベーターだとおもう）のかぼちゃにもシュールな味わいがある。

シャンデリアの

ような腹痛抱え昼寝

吉沢美香

建物のなかで見れば壮麗でゴージャスな気分を味わえるシャンデリアも、からだのなかにあつたらトゲトゲしていて痛い。これは発見だ。たいていのシャンデリアは人間のお腹より大きいので、六七六という定型のはみだし方からもその様子が伝わる。

本当にひどい財テクだったね

小薬味

